

カナダ遠征報告書



0. はじめに

久保亜季子です。

この報告書は、平成 22 年 9 月 26 日(日)～10 月 2 日(土)に高濱先生引率の下に行われた「7 大学女子柔道大会優勝記念 カナダ遠征 7 日間」について記したものです。

このときの様子は、OB 用掲示板・名大柔道部ログ内でも紹介しましたが、この報告書では写真なども加えてまとめています。内容の多くは重複しますが、一度ご覧いただくと幸いです。

(尚、これはカナダ遠征の「報告書」ではありませんが、内容・表現などは多少部ログ風になっています。予めご了承下さい。)

遠征日：平成 22 年 9 月 26 日(日)～10 月 2 日(土)

1. カナダへ【出発前～1日目】

まずは今回、カナダ遠征をさせていただくことになった経緯から…。

(OB用掲示板より引用)

今年の七帝戦で女子は8年ぶりに優勝することができました。支えて下さったOBの皆様、本当にありがとうございました。

入学してから約3年半、世間一般で言う「女子大生」とはかけ離れた柔道生活を送り、道場と下宿を行き来する毎日でした。もちろん充実した毎日で、就活の面接でも胸を張って言える経験ばかりです。

しかし、あまりに社会での経験が少なすぎるのではないかと、医療従事者を志す者として視野を広げておくべきではないかと、このままでは社会適応できない…。

名大柔道部にはいろいろな国の方が来て下さり、世界の広さを実感することができました。

今回女子が遠征するカナダは、高濱師範が大学生の時に1年間柔道をご指導されたところで、その後の人生においてとても重要な多くのことを学んだ場所だとお聞きしています。

私達も他国の文化に触れ、多くのことを吸収してきたいと思います。そして、その経験を名大柔道部に生かしたいと考えています。

まだ詳細は未定ですが、9月初め頃に高橋元主将、久保、池永、土屋が行く予定です。

ただ、海外遠征となると資金面で苦しいところがあります。そのため、OBの皆様には大変恐縮ではございますがカナダ遠征のためのカンパ協力をお願い申し上げます。カンパでするので強制するものではございません。ご賛同いただける方はどうかご協力お願いします。

(「カナダ遠征カンパのお願い」、10/07/07)

この記事の投稿後、本当に多くのOB・OGの方々、高校柔道部関係者の方々、また外部から出稽古に来て下さる方々よりご賛同、カンパしていただき、今回のカナダ遠征を実現することができました。本当にありがとうございました。

さて、こうして7日間の日程が生まれ、いざ出発の日を迎えました。

(部ログより引用)

9月26日(日)。

11:55にセントレアに集合しました。

高濱先生は金曜日に一足早く日本を発たれたので、ここで集まったのは高橋先輩、久保先輩、池永先輩、私と、添乗員の松原さんの5人です。

5人で、12:55に成田行きの飛行機に乗りました。

飛行機に乗るとき、荷物を預けますが、無料で預けられるのが一人23キロまでなのだそ

うです。

久保先輩の荷物が2キロほどオーバーしました。

実際23キロというのはかなり重いのですが、我々の荷物も相当重かったようです。私も22.8キロというギリギリでした。

仕方がないので、久保先輩は柔道着を一着手荷物として機内に持ち込むことになりました。今更ですが、柔道着がきっちり2キロあったのに驚きました。乾いててもか…

成田に着き、免税品店をブラブラ見て時間を潰し、次はバンクーバー行きの飛行機に乗ります。（「帰ってきました：レポート①」、10/10/04）

（OB用掲示板より引用）

本日の17:50 成田国際空港発でバンクーバーに向かいます。時差は16時間ですので、バンクーバー到着後は早速ケロウナに向かい、ケロウナ柔道クラブで練習・指導会の予定です。ホームページのトップにある日程表ではホテル5泊となっていますが、最初の4泊はホームステイです。時差ボケ、気候の違いなどで体調を崩さぬよう、カナダの地でいろいろ経験してきたいと思います。ご賛同、カンパをしていただいた方々には、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

では、行ってきます！（「カナダ遠征へ出発」、10/09/26）



こんな感じで、空港での時間を過ごしました。

カナダでの柔道や英語でのコミュニケーション、ホームステイなどなど、たくさんの期待と不安でいっぱいでした。そして、17:50 日本を発ちました。

(部ログより引用)

この空の旅は、自分との戦いでした。

日本時間で夜の6時に成田を出発し、約8時間飛び、バンクーバーの現地時間で朝の10時に到着するのです。

ということは、8時間のフライトでしっかり寝ておかなければなりません。

結局、全員ほとんど眠ることはできませんでした。

私なんて、首にエアクッション巻いて、アイマスクして、耳栓までつけたのに、せいぜい1時間しか眠れませんでした。

光も音もない孤独な世界で、ひたすら眠るために神経を集中させていました。

勝てませんでした。

眩しい(凶悪な)朝の陽ざしを浴び、カナダの地に降りました。

バンクーバーからケロウナへ移動し、ケロウナで2日間ホームステイさせていただくウッド渚さん宅に行きました。超豪邸でした。

荷物を置いてすぐに柔道着に着替え、道着のままケロウナ柔道クラブに向かいました。「帰ってきました: レポート①」、10/10/04)

日本との時差16時間。カナダの方が遅れているので、2度目の9月26日が始まります。

飛行機ではなかなか眠れず、全員やや時差ぼけ状態でバンクーバー空港に到着。カナダの地に降り立ちます…と言いたいところですが、まさかのハプニングにみまわれました。

(OB用掲示板より引用)

ということで、無事カナダに着きました高橋です。入国審査の際、さっそく三人娘の英語がうまく伝わらず、別室で取り調べを受けるというハプニングがあり、前々日入りしていた高濱師範を待たせてしまい、ネタにされてました。ちなみに自分は流暢な英語でなんなくパスしました。

まだ、自分を含め学生四人は怖じ気づき気味ですが、空港のちょっとしたベンチでいつもの後ろ腕立て伏せ(?)をやり、自分のスタイルを貫いている高濱師範のように積極的にいろいろ経験できたらと思います。

では有意義な旅にってきます。（「アイアムインカナダ。」、10/9/27）

入国審査で女子は3人一緒に通ったのですが、ものすごく質問してくる方で、「Why？」の質問攻めに遭いました。なんとか切り抜け、スーツケースを受け取ったあと、入国カードを見せて通る場面でなぜか3人で別室に案内されてしまいました。どうやら入国審査で怪しい人物と疑われると、入国カードに何か書かれるようで、そんな怪しいと疑われた人物が何人か並んでいました。中にはスーツケースの中身から、手持ちのカバンから、その中のノートの1ページ1ページまで確認されている人もいました。「もう一度同じこと英語で聞かれても答えられないよ」と3人とも開き直っていましたが、外で待っていた添乗員さんと高橋先輩はいきなり消えた3人にびっくりしていたようです。ちなみに、その時に添乗員さんからの電話を池永が無視したこともびっくりされていました。

そんなこんなで、無事バンクーバー空港で高濱先生と合流しました。（ちょうど先輩方が女子を待っていた場所にカメラがあり、事の一部始終を入国ゲートの外のモニターで見ていた高濱先生にネタにされてしまいました。）

バンクーバー空港で昼食をとり、13：30にケロウナへ向けて発ちました。



2. ケロウナ【1日目~2日目】

ケロウナの空港では、ホームステイさせていただく元 JTB ガイドのウッド渚さんと2日間お世話をしてくれるジェフさんが迎えて下さいました。ジェフさんは藤枝東で ALT(英語教師)として2年間勤務されていたそうで、日本語も少し理解できるので安心しました。とはいえ、せっかくカナダに来たんだから英語で話さない！と思い、空港からウッドさんの家までの車中は必死に英語で会話しました。

(OB 用掲示板より引用)

バンクーバー空港から、ケロウナに移動しました。

ケロウナでは2日間、元 JTB ガイドのウッド渚さん家で2日間お世話になります。

ありえないほど超大豪邸です。

すぐに道着に着替えてケロウナ柔道クラブに行きました。

ケロウナ柔道クラブでは、大半が大人で、体が大きく強そうでした。

寝技の往復運動で体力を奪っておきました。

参加者の中の16歳の少年のお父さんは、昔高濱先生の教え子だったそうです。

練習後、ウッド渚さん宅で、海外らしい豪快な料理をご馳走になりました。

味は見た目の豪快さとは異なり、とてもおいしかったです。(「1日目&2日目」、10/09/27)

(部ログより引用)

バンクーバーからケロウナへ移動し、ケロウナで2日間ホームステイさせていただくウッド渚さん宅に行きました。超豪邸でした。

荷物を置いてすぐに柔道着に着替え、道着のままケロウナ柔道クラブに向かいました。

ケロウナ柔道クラブの道場はそんなに広くはありませんでしたが、強そうな大人の方がたくさんいました。

準備体操、往復運動の後、二人一組になり寝技の打ち込みをしました。

先輩達が、立ち技から三角に移るやつと、SRTの説明をして、その練習もしました。

寝技の次は、高濱先生が立ち技の打ち込みの指導をされました。

ケロウナ柔道クラブの人は、全員とても熱心に先生方の説明を聞いていました。

寝技の打ち込みをやっているときも、もう一回やって見せてくれとか、このとき右足はどうするのかとか、これで合っているとか聞かれました。

私の英語はひどかったです。それでも聞きながら聞いてくださいました。や、やさしい…

私達全員にお土産もくださいました。

ケロウナ柔道クラブの皆さん、本当にありがとうございました。

もっと英語が話せたら…せめて中学生レベルの文章くらいスラスラ出れば…常にそう思いました。

関係ないですが、私の打ち込みの相手は、スキンヘッドのマッチョで紳士でハンサムな男性でした。カッコよかったです。（「帰ってきました：レポート①」、10/10/04）

ということで、ホームステイ先のウッドさんのお宅は本当に超豪邸でした。道場は広くありませんでしたが、大人の方がほとんどで体が大きく、熱心に指導を聞いていた姿が印象的でした。

まずは、寝技の往復運動を行いました。やったことのない動きのようで、みなさん必死に学生の動きを見て真似ていました。

次に寝技の指導では、横帯取り返し、SRT、立技から横三角締めに移る技を学生がボディランゲージと片言の英語で指導しました。言葉が足りない分、大袈裟な動きで表現したり各自工夫していました。

次に高濱先生が立技の打ち込みを指導されました。「崩し」「作り」「掛け」の説明でした。そして国際ルールが変わったことによる、相手と組んで技をしっかりと受けることの重要性も説明されました。大外刈や大内刈、小内刈の打ち込みを行い、この日の柔道教室は終了しました。



練習後、ジェフさんの車でウッドさんのお宅に帰ると、すでにおいしそうな夕食の準備がされていました。先程一緒に練習したケロウナ柔道クラブの皆さんも続々と集まり、ホームパーティの夕食となりました。



(部ログより引用)

夜はウッド渚さん宅で豪華な夕飯をいただきました。

渚さんの知人の方々もいて、大勢での食事会となりました。

夕飯の後も、柔道VS少林寺や、スウィングダンスや、sushi 談義など、楽しい時間を過ごしました。

長い一日でした。

久保先輩はスーツケースから2キロの柔道着を取り出し、池永先輩はホームステイ経験があることを師範に突っ込まれ、高橋先輩はわりとガチで腕相撲をし、私はハイキックを食らいました。

30時間以上ぶっ続けで起きていました。(「帰ってきました：レポート①」、10/10/04)

ジェフさんは少林寺拳法の黒帯ということで、夕飯後は少林寺と柔道の交流会を(勝手に)行いました。ウッドさん宅は本当に広く、高橋先輩が飛び十字を披露できるくらいでした。

ジェフさん vs 高橋先輩のガチ腕相撲や、スウィングダンスを教えていただき、慣れないダンスで高橋先輩が土屋にハイキックを食らわすなど、本当に楽しい一時を過ごしました。

2日目。



(OB用掲示板より引用)

朝6時に目覚めましたので、まるで海外ドラマのような街を散歩しました。カナダの朝はかなり冷え込みますが、昼は日差しが強く、半袖で十分です。ケロウナ市役所を訪れましたが、市長とはすれ違ってしまいました。ケロウナの特産品であるりんご園に行きました。りんご園では、名物ガイドさんから熊がりんごを食べに来ると聞いて、カナディアンジョークと思いましたが、実際に熊のりんごオンリーの糞を見てびびりました。そんな気も知らず高濱先生は巴投げで応戦するように僕に命じました。その後はワイン工場に移動しました。大阪出身の元気の良いお姉さんが説明してくれました。おいしいワインをいただき、さらにその湖が見渡せる綺麗なレストランで昼食をいただきました。お酒の入った高濱先生はすごくすごく上機嫌でした。夜はバーノン柔道クラブでの指導でしたが、その前にまたまた豪華な懇親会を開いてくだ

さいました。

ここで我々の英語スキルは飛躍的にアップしました。

その勢いで、柔道クラブでの指導を行いました。ここはカナダで一番古い柔道クラブで、たくさん子ども達がありました。

高濱師範の打ち込みの指導後、寝技乱取、立ち技乱取を行いました。

子ども達の元気とかかわいさに旅の疲れも忘れました。

こんな感じでかなり充実しています。だいぶ英語で話すことにも抵抗がなくなって来ました。もうすぐ日本語を忘れてしまうかもしれません。忘れないように、掲示板でちょくちょく報告していきたいと思います。（「1日目&2日目」、10/09/29）



（部ログより引用）

朝日が湖に反射し、少し肌寒く、さわやかな朝でした。

ケロウナ市長表敬訪問のため市役所を訪れましたが、市長とはすれ違ってしまったようで、お会いすることはできませんでした。

ケロウナは春日井市と姉妹都市で、市役所の敷地内にカスガイガーデンという立派な日本庭園がありました。

私達がカスガイガーデンを散策している間、高濱先生は市長室を見学（秘書の方は許可し

なかったそうですが) していたらしいです。

私達は春日丘高校の学生とケロウナの学生との「友情の輪」と書かれた記念碑を見たりしていたので、詳しいことはわかりません。

次にりんご園に行きました。

りんごはケロウナの特産品だそうです、最近は外国の安いりんごがどんどん輸入され、経営が非常に厳しいそうです。

そんな話を陽気なガイドのおじさんがしている間、高濱先生は木になっているりんごを取る振りをしたりして、ガイドさんに「ノー、ノー」と言われていました。

リアルに熊が出そうだったので、みんなカメラを構えていました。

私達の結論は、たとえ巴で投げたところで熊にダメージを与えることはできないだろう、でした。

次にワイン工場に行きました。

おいしいワインをいただきました(私以外)(私はマスカット味のフロズンをいただきました。おいしかったです。)

高濱先生はとっ…ても上機嫌でした。

夕方、バーノン柔道クラブの方々が豪華な懇親会を開いてくださいました。

私達はバラバラに座り、みな自身の英語力を発揮しました。

こんな かんたんなことも えいごでいえない わたし …

抜き打ちテストを受けている気分でした。

語学は継続が大事ですね。ほんっとに簡単な単語すらスッと口に出すことができませんでした。

そんな私の英語も真剣に聞いてくださって、また私が聞き取りやすいようにゆっくり喋ってくださって、本当にうれしかったです。

申し訳ないくらいでした。ありがとうございました。おかげ様で、とても楽しい夕食会でした。

その後、柔道の練習をしました。

バーノン柔道クラブは人数が多く、ちびっこから大人まで大勢いました。

外国の子供ってどうしてあんなに可愛いんだろう。

真っ白な柔道着を着て走り回っているところとか、あれ?天使がいっぱいいるぞ??って感じでした。

往復運動、高濱先生の打ち込み指導、寝技乱取り、立ち技乱取りをやりました。

寝技乱取りで相手になったおじさんに、「ユーアーストロング!」と言われました。

嬉しかったので「オーセンキュー」と返しました。私の語彙力などこの程度です。
ここでも、お土産をいただきました。
バーノン柔道クラブのみなさん、本当にありがとうございました。

ああ一箇潔にまとめて書くと言ったのに、2日目のことだけでこんなに書いてしまいました。
すみません、それだけ充実していて、中身の濃い一週間だったということが伝わればと思います。（「レポート②」、10/10/06）

ということで、2日目は愛知県春日井市と姉妹都市であるケロウナを散策しました。



「カスガイガーデン」という日本庭園のすぐ横にケロウナ市役所がありました。残念ながら市長とはすれ違ってしまいましたが、ケロウナのシンボルマークのバッチをいただきま

した。

そして、シンボルマークにも描かれているりんごはケロウナの特産品ということで、りんご園に行きました。広大な敷地に終わりが見えないほどのりんごの木がありました。その中をトラクターのような車で走りながら、りんごの種類やケロウナのりんご産業についてガイドさんが説明して下さいました。日本でもよく知られている「ふじりんご」もありました。

りんごと同じくケロウナのシンボルになっている熊が出るということで、熊の通った跡や食べかけのりんご、りんごオンリーの糞まであったことには本当に驚きの連続でした。



その後は、これまたケロウナの特産品であるワイナリーに行きました。私たちが訪れた SUMMERHILL PYRAMID WINERY は、金賞を受賞するワインを製造している世界的にも有名なワイナリーでした。フルーツ産業が盛んなケロウナで栽培されるぶどう、ワインに最適な環境を自然に維持できるピラミッドでワインを熟成させることでおいしいワインを製造していました。おいしいワインをいただき、そのワイナリーで昼食をとりました。

一旦到着を取りにウッドさん宅へ帰ると、すぐにバーノン柔道クラブとの懇親会に向かいました。バーノンまではケロウナから少し距離があり、車中ではみんな仮眠をとっていました。このスケジュールで睡魔が襲ってくるのは仕方がないことですが、ケロウナ滞在中ずっと運転をして下さったウッドさんやジェフさんは自分たち学生にここまで尽くして下さい、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



バーノン柔道クラブはカナダで一番古い柔道クラブです。懇親会にはたくさんの方が来て下さり、自分たちはバラバラに座ることになりました。単語がなかなか出てこなくて苦心しましたが、自分の話を目を見て真剣に聞いてくれる姿に嬉しく思いました。

懇親会後はバーノン柔道クラブに移動して、子どもたちに柔道教室を行いました。さすが一番古い柔道クラブだけあって、たくさん子どもたちがいました。寝技の往復運動と高濱先生による立技の打ち込み指導が行われ、寝技乱取と立技乱取をしました。

練習後はウッドさん宅へ帰り、ケロウナでの2日目を終わりました。

3. カムループス【3日目~4日目】

(OB用掲示板より引用)

今日は、ケロウナからカムループスに移動しました。

車で約3時間です。

途中で、サケ(サーモン)の産卵を見ました。

赤いサケがいっぱいいました。熊はいませんでした。

高橋先輩は熊と闘う準備をしていたのに残念です。

夕飯でステーキをご馳走して頂きお腹いっぱいカムループス柔道クラブへ行きました。

約2時間練習しました。寝技と立ち技の指導をして、みんなとても熱心に打ち込みをしていました。

今、こちらは午後11:30です。(注:この記事の投稿は↓より8時間30分程遅れているので、今こちらは午前8:00ぐらいかと思います)

今からキャンピングカーでみんな寝る予定です。(「小塚、これ訳せ!!」、10/09/29)

(部ログより引用)

3日目。

ケロウナを発ち、カムループスへ。

ケロウナでお世話になったみなさん、ありがとうございました。

とりわけ、2日間ホームステイさせていただいた、渚さん、ハロルドさん、本当にお世話になりました。

またカナダに行く機会があれば、必ずご挨拶に伺います。

…と思っていたら、春日井まつりのケロウナブースを担当するため、先日渚さんが来日されていました。

なので、高濱先生と松原さんと私たちカナダ遠征組で、挨拶に行きました。

思ったより、カナダは近いのかもしれない。

お金貯めて、絶対またケロウナに行ってやる!!!

カムループスへ向かう途中、迎えに来てくださったヘンリー上田さんがたと一緒にサーモンの産卵を見ました。

今年は当たり年だったらしく、観光客がたくさんいました。

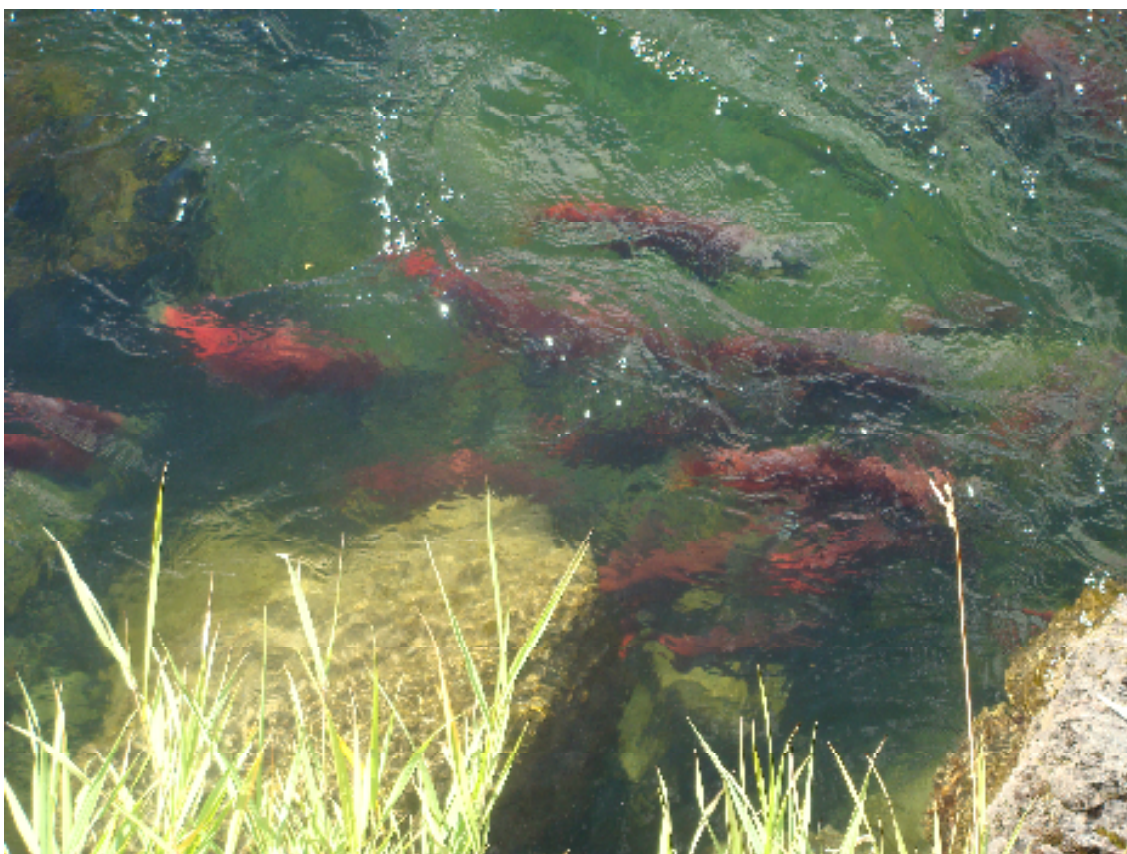
1ヶ月後がピークだそうですが、私たちが見た時点で既に立派なサーモンが大量に泳いでいました。

途中で力尽き、川に流されていくサーモンたちが切なかったです。お疲れ様…(「レポート

③J、10/10/21)

1年のうち300日くらい晴れというケロウナには珍しい、曇り空の朝でした。この日の朝は、ウッドさんが日本食の朝食を作ってくださいました。久しぶりに食べるご飯とみそ汁にとってもホッとしたことを覚えています。

カムループスからヘンリー上田さんが迎えに来て下さいました。カムループスへ向かう途中で、アダムス川でサーモンの産卵を見学に行きました。今年は4年に一度の大量のサーモンがやってくる当たり年で、大きなサーモンを間近に見ることができました。サーモンは必ず生まれた川に戻ってくるのですが、真水の川に入ると、一切食べ物を受け付けず500kmを一気に遡上していきます。体重を半減し、顔つきが陰しくなって、たった一つの目的である子孫を残すために泳いでいきます。産卵後は、オスもメスも力尽きて死んでしまうのですが、死んだ後も死骸が腐乱し分解されて川の栄養素になり、産卵した稚魚の餌になります。私たちが訪れた時期は少し早かったので、死骸よりも泳いでいるサーモンが大半でしたが、本当に大きなサーモンがたくさんいて感動しました。



カムループス柔道クラブへ行く前に、ホームステイさせていただくデンジ小林さんにお会いし、スーツケースを預けて、夕飯を食べに行きました。ものすごく厚みのあるステーキでしたが、とても柔らかくておいしかったです。そして、お腹いっぱいそのままカムループ

ス柔道クラブへ向かいました。

(部ログより引用)

カムループスに着き、カムループス柔道クラブに行きました。

SRTや横帯取り返しの指導、高濱先生の立ち技指導、立ち技打ち込み、立ち技乱取りをしました。

打ち込みで組んだ女の子が、打ち込みをしながら「難しいね」的なことを言いながらはにかんでくれたり、私が打ち込みをやると「グッジョブ！」とか言いながら笑ってくれたりして、私自身は英語なんて全然喋れてないのに、ほぼ完璧に意思疎通が出来ているような気がして、柔道ありがとうと思いました。

乱取りでは、向こうは男性メンバーが大勢いるのに対し、こちらは高橋先輩だけなので、みんなで高橋先輩を取り合っていました。

みんな柔道が大好きなんだということがよくわかりました。

スポーツでは何でも言えることかもしれないけど、言葉なしでこれほどお互いの気持ちが分かり合えるってすごいことだと思います。

特に柔道は、しっかり組んで、普段の生活よりもずっと近い距離で接することができるので、柔道を通してコミュニケーションができて本当に良かったです。(「レポート③」、10/10/21)

カムループス柔道クラブでは、最初に子どもたちと寝技乱取を行いました。子どもと言えどパワーがあり、寝技もセンスのある動きをしている男の子がいたのが印象的でした。子どもたちの稽古が終わると、続いて大人の稽古が始まりました。ちなみに、各柔道クラブで私たちは軽い自己紹介をしたのですが、3回ともひどいものでした。特に、いきなりスピーチをすることになったケロウナ柔道クラブの時は、単語が出てこなくて「あー」とか「えーっと」ばかり言っていた気がします。人前で英語のスピーチをするのは難しいですね。さて、大人との稽古では、寝技の往復運動、横帯取り返しとSRTの指導、高濱先生による立技の打ち込み指導、立技乱取を行いました。立技乱取では、我先にと乱取にくる姿が印象的でした。女子もパワーがあり、足が長いので一つ一つの技がダイナミックだと感じました。



(部ログより引用)

柔道クラブの後、カムループスでホームステイさせていただくデンジさんの家に行きました。

デンジさんはとても明るく、豪快な人で、とても楽しい時間を過ごしました。

元オリンピック選手 (!) のデンジさんの奥さんが銃で仕留めた (!?) 熊の毛皮や、鹿の角などを見せてもらったり、その鹿のジャーキーを食べさせてもらったりしました。

みんな熊の毛皮を背負い投げしていました。毛がゴワゴワしていて、すごいいリアルでした…って本物なんですけどね。

デンジさん家の犬の「チョウナン」がめちゃくちゃ躰がしっかりされててびっくりしました。

口にジャーキーくわえたまま「Wait」で10分待てるそうです。私より賢い。

私も真似してお手とか伏せとかやってみました。お手も伏せもすぐやってくれたけど、「Wait」は絶対やってくれませんでした。(「レポート③」、10/10/21)

稽古の後はデンジさんの車でデンジさんのお宅に向かいました。大きなキャンピングカーが止まっているお宅で、滞在中は学生の希望によりキャンピングカーで寝泊まりすることになりました。デンジさんの奥さんは射撃の元オリンピック選手で、大きな熊を仕留めたこともあると高濱先生から聞いていました。そのことをお話しすると、その熊の毛皮を見

せて下さいました。他にも鹿の角や熊の頭蓋骨などを見せてもらったり、銃を持たせていただいたりしました。なかなかできない貴重な体験で、みんな興奮気味でした。こうして3日目が終わりました。

4日目。

(OB用掲示板より引用)

ハロー!!高橋です。ただいま、こちらは夜 12 時です。(注:日本時刻の午後 3 時 44 分の時点です。なので、あちらは現在午前 6 時頃かと思います。)

今日はまず朝にカムループス柔道クラブの創始者であるヨシ吉田先生のお見舞いに、老人ホームを訪問しました。吉田先生は熊本出身で、高濱師範が若かれしころからホームステイするなどお世話になっていたそうです。ここでは土屋がおばあさんの車椅子を押して暴走していました。

その後、かなりでかいスーパーに行ってお土産を買おうと思いましたが、どれも多すぎてやめときました。

カムループスでは、デンジさんの家でお世話になりました。

デンジさんには、2歳の娘さんが1人いるのですが、なぜかとても嫌われています。

目を見ると泣かれます。こんな悲しいことはないです。

夜は、柔道クラブで懇親会を開いてくださいました。

プレゼントをたくさんもらい、その後一人一人流暢にスピーチを行いました。もはやネイティブです。

それではさよなら。

I am sad (「無題」、10/09/30)

(部ログより引用)

高濱先生が以前お世話になったヨシ吉田先生のお見舞いに、老人ホームを訪問しました。

吉田先生は、高濱先生が単身カナダに渡ったときにホームステイし、その後も高濱先生が連れられた学生を受け入れられたりと、高濱先生の恩人だそうです。

老人ホームでは、私が他のおばあさんたちと身振り手振りで話をしている間、久保先輩と池永先輩はホームの看護師さんから色々話を聞いて勉強していました。

お昼はA & Wというハンバーガーショップでごちそうになりました。

サングラスのナイスガイ・リックさんは、カムループスでの車移動をほとんど運転してくださった人です。

リックさんはこの辺りのA & Wのエリアマネージャーだそうです。
某マク○○ルドより健康志向で、比較的大人をターゲットにしているというA & Wの、ハンバーガーを3枚挟んだバーガーには若干ビビりましたが、私はチキンバーガーとフライドポテトにチーズを乗せたやつをとともおいしくいただきました。
吉田先生の奥さんがお弁当を作ってきてくださって、それもものすごくおいしかったです。ごちそうさまでした！（「レポート③」、10/10/21）



ということで、高濱先生が以前お世話になったヨシ吉田先生のお見舞いに老人ホームを訪問しました。この老人ホームは、自宅生活できない約75名の方が利用されているそうです。日本と同様、カナダも高齢化が進んでおり、このようなNursing Homeが増えてきているとのことで、現在カムループスでは6か所あり、国へ申請すると利用できるそうです。吉田先生に挨拶を終え、A&Wというカナダではポピュラーなハンバーガーショップで昼食を終えると、2月にカムループスで行われる柔道大会の会場を見に行きました。会場のすぐ近くにきれいな芝生が広がっており、なぜか（高濱先生の命により）芝生の上でTシャツのまま投げ込みとすり上げをしました。



午後は大きなショッピングセンターに行ったのですが、1品の量があまりに多すぎて買うことができませんでした。2, 3件のショッピングセンターをまわったり、デンジさんのお宅のトランポリンで童心にかえって遊んだりして、カムループス柔道クラブとの懇親会までの時間を過ごしました。

(部ログより引用)

午後は、カムループス柔道クラブとの懇親会がありました。

柔道クラブの人たちと話しながらの楽しい夕食会だったのですが、最後のデンジさんのスピーチでぐぐっときて、ヘンリー上田さんのスピーチで止まらなくなりました。号泣でした。

デンジさんが「私たちのことを忘れないでいてくれたら嬉しい」と言ってくれて、今日の日のことはもう絶対忘れないだろうと思いました。

上田さんに「何にもしてあげられなかったけど」と言われてしまって、何と云えばいいかわかりませんでした。

カナダに着いてから、私たちはしてもらうばかりでした。

もう泣けて泣けて…笑って「Thank you」と言いたかったのに、まともに喋れませんでした。

(「レポート③」、10/10/21)

カムループス柔道クラブとの懇親会では、一人ずつスピーチすることになっていたのですが、直前までみんな何も考えていなかったのが、会が始まるまで沈黙して必死に考えていました。その甲斐あってか、初日よりもみんな上達していたように思います。このころには土屋が完全に英語に染まっており、リアクションが「わーお！」とかの連発で、日本に帰ってから大丈夫かと本気で心配しました。

懇親会の帰りの車中では、デンジさんの娘さんに嫌われてしまった高橋先輩が娘さんの隣に座り、ずっと娘さんが泣いていました。さすがの高橋先輩も落ち込んでいました。こうしてカムループスでの2日間が過ぎていきました。



4. バンクーバー【5日目】

(部ログより引用)

カムループスを発ち、バンクーバーへ。

デンジさん宅での最後の朝でしたが、高橋先輩はデンジさんの娘さんのカイヤちゃんに最後まで怖がられていました。

私も決して懐かれることはなく、目が合うとすぐ「マ～マ～」と助けを呼ばれましたが、高橋先輩は、デンジさんが抱っこしながら「ドラゴン！ドラゴン！」と言っても号泣・絶叫というどうしようもない状態で、普通にへこんでいました。

お別れのとき、奥さんが私たちみんなを抱きしめてくれました。

本当にありがとうございました。お世話になりました。

また行きます。絶対行きます。

次はもっと英語が話せるようにします。

空港まで、上田さんとリックさんが見送ってくださいました。

何から何まで、本当にありがとうございました。

また泣きそうになりました。

バンクーバーに着くと、現地の JTB の方が市内を案内してくださいました。

ブリティッシュコロンビア大学はものっすごい広かったです。

どこから大学？ここは？ここは？と思ったところはだいたい大学の敷地内でした。

新渡戸稲造の日本庭園の入口で受付をしていたお兄さんが日本語ペラペラなのに分からないフリしてて面白かったです。

ホテルにチェックインした後は自由行動となり、ここで急いでお土産を買い込みました。

本当は買いたいものがもっとたくさんあったけど、飛行機での荷物の重量制限を考えると断念せざるをえませんでした。

ホテルに戻ってからは、またまた高濱先生のお知り合いであるブラッドリーさんと一緒に色々話しました。

ホテルの部屋からの夜景がやばかったです。

女子3人満場一致で、新婚旅行はカナダに決定しました。(「レポート③」、10/10/21)

この日の朝はカムループスの空港からバンクーバーに向かいました。

バンクーバー空港に着くと、現地の JTB の方が市内を案内して下さいました。まずブリティッシュコロンビア大学を訪れました。名古屋大学も広いと思っていましたが、比じゃないくらいめっちゃめっちゃ広かったです。大学敷地内に50km以上で走れる道路が普通にありました。ブリティッシュコロンビア大学は高濱先生が昔、柔道着を持って訪れたところだそうで、JTB の方よりも大学内について詳しくかったです。新渡戸稲造の日本庭園を見学し、「願はくは われ太平洋の橋とならん」と書かれた石碑などを見て回りました。

その後はトーテムポールやスタンレーパークなどを観光し、グランビルアイランドで昼食とショッピングをしました。ホテルにチェックインした後は各自自由行動となり、バンクーバーの街並みを歩いたり、買い物したり、サイクリングをしたりと思い思いの時間を過ごしました。夜はグランビルアイランドでシーフード料理の夕飯をとり、翌日お世話になるブラッドリーさんとお会いしてカナディアンビール片手に語り合いました。ブラッドリーさんも高濱先生のお知り合いで、カナダの地でも高濱先生の柔道ネットワークの広さを

感じました。



5. 日本へ【6日目～7日目】

(部ログより引用)

ブラッドリーさんが車で迎えに来てくださって、空港まで荷物を運んでもらいました。

空港に行く途中、道で知らないお姉さんが「オウ！ディスグリーンバッグイズナーイス」と私の緑のバッグ（千円@小牧のジャスコ）を指さしながら言いました。

いきなりでびっくりしましたが、嬉しかったので「オーウセンキューベリマーッチ」と返しました。

カナダの人は、ホントにみんな明るくて優しくてフレンドリーなんだなあと思いました。

空港に着き、飛行機に乗り、カナダの美しく広大な土地を離れました。

ありがとうカナダ。また絶対戻ってくるよ。そのときはよろしくね。

ただいま！日本！

ここまで読んでくださってありがとうございました。

このカナダ遠征で、私は本当に多くのことを学ぶことができました。

日本とカナダで違うところもたくさんあったし、全く変わらないこともたくさんありました。

日本という国をいつもと違う視点から見ることができ、新しい発見がいくつもありました。自分の気持ちを言葉で表すことの大切さを感じることができました。

言葉が通じなくても、柔道を通して分かり合う気持ちがあることもわかりました。（「レポート③」、10/10/21）

ブラッドリーさんが迎えに来て下さり、車でスーツケースを運ぶ人と、スカイラインで向かう人に分かれて、バンクーバー空港に行きました。

カナダでのいろいろな経験や思い出を胸に、成田空港に向けて12：35に発ちました。9時間の空の旅を経て、成田空港で乗り継ぎ、19：45に無事中部国際空港に到着しました。

（OB用掲示板より引用）

たった今家に着きました。

大きなトラブルもなく、先ほど土屋のお母さんの待つ中部国際空港にて解散し全日程を終了しました。

報告については後で行いますが、本当に有意義な遠征となりました。

このような貴重な経験をすることができたのも、遠征に賛同、支援して下さった方々、現地での皆さんの協力があったからこそだと改めて思います。本当にありがとうございました。（「ただいま！！」、10/10/02）

6. あとがき（筆者感想文）

今回のカナダ遠征は、本当に多くの方々のご協力・ご支援の下、実現したのだと今改めて感じています。発案・企画して下さった高濱先生、ご賛同・カンパしていただいた先輩方はじめ柔道部関係者の方々、日程調整や現地での案内にご尽力いただいた JTB の松原様、現地での移動・ホームステイ・柔道教室等で出会いお世話になった皆様、支援事業として採択していただいた名古屋大学全学同窓会、4年間柔道部での活動を見守ってくれた両親に心より感謝申し上げます。言葉では表わせないくらい、貴重な体験ができたことを嬉しく思います。そして、世界の広さを感じた遠征でもありました。遠征を通して、自分の意見がなければいけないということを痛感しました。「どちらでもよい」という考え方は相手に対して失礼であり、話すときは相手の目を見て自分の意見をはっきり言うという基本的なことを改めて気付かされた旅でもありました。柔道を通して、たとえ言葉が通じなくても真剣に相手と向き合うことで意思疎通ができ、コミュニケーションの輪が広がることを学びました。きっと高濱先生も、柔道着片手にカナダという異国の地を一人で訪れ、柔道を通して人と出会い、向き合うことでここまで輪を広げられたのではないかと思います。柔道と言えば日本やフランスをイメージしますが、どうしてカナダなの？という疑問を、私は遠征に行く前に聞かれたことがあります。この答えの一つを、以前カムループスでの柔道大会に参加した日本選手団の方が書かれていたので紹介したいと思います。

「あの第二次世界大戦の開戦によって日系人は一人につきトランク一個を持ったままで、今までの生活の場を放棄させられて、カナダの西海岸から160km内陸の荒野に強制収容されたのである。一世、そして当時少年であった二世の耐え難い収容所生活が介在していることを知った。日系人は、この収容所生活でも日本人としての誇りを失わなかった。これからどれだけ長く収容所生活を送らされるか分からず、あれもこれも欲しい生活用品を残して柔道衣を小さなトランクに忍び込ませた心情からも柔道から学ぶ礼の大切さを知ってのことだろう。そして、収容所の粗末な小屋において、ある時は野原で親と子、壮年者と青年・少年と柔道の稽古が続けられた。戦争の終結と同時に収容所生活は終わったが、以前の地に戻っても、そこには日本人以外の人々の生活の場が展開されていたので日系人は新天地を求めての生活がまた始まった。生活は貧しかったが、使い古された愛用の柔道衣はいつも手元に置かれ愛用された。日系人の集うところではその後も、場所を求めて、雨漏りするような倉庫などでも稽古は続けられた。」

こうして、「礼に始まり、礼に終わる」柔道の教えを受け継いだカナダの柔道があるのだと思います。カナダの柔道クラブで出会った方はみな礼儀正しく、「礼に始まり、礼に終わる」柔道という言葉が浮かびました。

見聞を深めると同時に、忘れていたことを思い出させるような旅でした。

最後に改めて、今回の遠征にご協力いただいたすべての方々に厚く御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

記：久保 亜季子

7. 各自の学び

カナダ遠征感想文

高橋 龍

今回皆さんの協力により実現した女子優勝記念カナダ遠征（平成22年9月26日～10月2日）に高濱師範のアシスタントとして私、高橋龍も帯同させていただきました。カナダでの滞在は五感に伝わる全てが新鮮で、たくさんを感じ、思いました。私のつたない文章力では、本当に思ったことの半分も伝えられない気がしますが、このすばらしい経験を文字におこさないのはもったいないので、感想文を書きます。ところで、なぜ女子優勝遠征で、あえて私が行くことになったか疑問に思うかもしれませんが、今回の目的として現地の柔道クラブでの高濱師範による指導がありましたので、高濱師範の受けを十分にこなし、かつ、師範との一週間を耐え切る精神力を持つのは私しかいません（笑）。きっと現主将のNノ森では8キロくらい痩せてしまうでしょう。

まずカナダで思ったことは、もともと後悔なんて微塵もありませんが、やっぱり柔道をやっていてよかったと改めて思ったということです。とくに名大柔道部でやり通したからこそ、このような経験をさせていただくことができたし、カナダでも多くの方々が歓迎してくださいました（これはカナダで有名人の高濱師範の力ですが…）。練習においても柔道をメシの種にしているわけでもない私に、まるで日本の強化選手が来たかのように、熱心にかかってきてくれました。遠征前の研究室の多忙さによる練習不足と練習前に摂取した分厚いステーキにより、明らかに運動量が落ちてしまったのは申し訳なかったですが、一応全員に勝てたのでホッとしました。練習以外でも柔道の話などで、へたくそな英語ながらもコミュニケーションをとることができました。勘違いしているような言い方になりますが、日本で生まれ、今では世界中の多くの国で親しまれている柔道に打ち込んだ学生生活は世界で認められるものだと勝手に自信を持ちました。

英語について。本当に英語力の低さが情けなかったです。単発の会話くらいなら、大体伝わるのですが、この人ともっと話したい、もっと仲良くなりたいと思っても、深い話や本当に伝えたいことがうまく言えなかったことが多々ありました。それでも、入国したときに比べれば、スムーズに会話ができるようにはなりました。つまり、単に文法力や単語力の不足ではなく、異国に縮こまってしまっていた部分が大きかったのだと思います（師範はこの臆しない能力が規格外!!逆に相手を縮こまらせていた!!）。私の中では、英語でもっと話したかったら、英語を話そう!!という結論が出ました。大学、特に名大という環境は他の社会と比べて外国人と英語で話すチャンスが多いので、研究室の留学生や道場に来た外国人とたくさん話したいです。

今回の遠征期間はサンキューをとにかく口にしていました。それは、ただ特別にカナダの人が親切だったからというわけではなかったように思います（もちろん、大変親切にはしていただきました）。日本人も大概親切です。それは言葉がうまく伝わらず、自分が無力

な世界では、人の小さな心遣いにも気付けたからで、いままで私は日本で多くのありがとうを見逃していたのかもしれないと気付きました。大学の柔道部に入ってから、人生を豊かにするためには、人と人の繋がりが大事だということをたびたび感じていましたが、今回の遠征もまた例に漏れず、その繋がりによって充実したものとなりました。そういった繋がりは相手の好意に対して感謝する、感謝の意をつたえることで絶やさずにいられるのだと思います。これからは、ありがとうと言えるナイスガイを目指します。

今回の遠征は、OBをはじめとする遠征に賛同して下さった方々の多大な援助、現地の柔道クラブの恐縮するほどの歓迎、ホームステイやいろいろお世話をしてくださった方々の協力により、一生の財産となる充実したものとなりました。心から感謝しています。ありがとうございました。最後にこの遠征を発案し、私たちにこのような貴重な経験を与えてくださった高濱師範にお礼申し上げます。

・後日談

カナダから帰った一週間後の日曜日。愛知県武道館で愛知県実業団体重量別大会が行われ、私は名大柔友会として73キログラム級に出場しました。体がよく動き、準決勝までの四試合全て寝技による一本勝ちをしました。準決勝は負けてしまいましたが、一番人数の多い73キログラム級で三位に入りました。はやくもカナダの成果か！！??

カナダ遠征感想

池永 祐梨

この度、七帝戦女子優勝記念として9月26日から10月2日までの7日間、カナダに遠征して参りました。事前に現地でのスケジュールは頂いたものの、大まかな内容しか記されておらず、半ばミステリーツアーのようなもので、出発する前からどきどきわくわくが止まりませんでした。

余談ですが、今回の遠征の目的でもある柔道の指導・練習のために柔道着を2着、お土産にタオル（七帝女子優勝記念タオル）を一人当たり約25枚、さらに柔道部Tシャツも一人当たり約5枚持っていくこととなったため、準備の段階でスーツケースの片面がすべて柔道関係のもので埋め尽くされ、出発前からスーツケースはばんぱんでとても重かったです。案の定、出発時荷物を預けるときに久保は重量をオーバーしてしまい、急遽柔道着（2kg/一着）を手荷物に変更するというハプニングもありました。

現地に着いて、入国手続きの時にちょっとしたトラブルがありましたが、無事にカナダに足を踏み入れることができました。建物の外に出て最初に思った感想が「寒っ」でした。現地での気温は日本よりも6～10℃くらい低く、特に夜（ケロウナ・カムループスでは平

均最低気温が6℃らしいです…)は本当に寒かったです。降水量も日本に比べてとても少ないみたいです。

最初の2日間はケロウナで過ごしました。ここでは、ケロウナ柔道クラブとバーノン柔道クラブを訪問させていただきました。子供たちの元気の良さやひたむきさ、自分の稚拙な説明にも真剣に耳を傾け熱心に質問をしてくれるなど、柔道に対して真剣に取り組みかつ本当に柔道が好きなんだなあと感じる姿が印象的でした。

ケロウナの次は車でカムループスへ向かいました。ここでも2日間滞在しました。カムループス柔道クラブでは、主に立ち技の指導・打ち込みを行いました。常日頃から言われるように、基本が大切で、しっかりとした指導者に正しい打ち込みを習うことがとても重要だと感じました。そういった意味で、指導者とはとても偉大な存在でかつ責任の必要な役割だと思いました。今回カナダで訪問した柔道クラブのメンバーの中には大人の人でも始めたばかりの人や、半年ぶりに練習に参加した人などもたくさんいました。自分の都合に合わせて練習に参加しており、とてもものびのびと自由な感じがしました。そして、何より、楽しんで柔道をやっており、自分自身そのように楽しんで柔道することが継続・スキルアップの鍵であると感じました。

カムループスでの日程を終えた後は、バンクーバーへ移動しました。バンクーバーでは1日滞在しました。今回の遠征を通して、高濱先生の人脈は日本だけでなく、海外でもすごいのだなと思いました。本当に多くの現地の人のご協力がありました。40年近く前の交流が、たった1年に1回程度手紙を送るだけで今まで関係を保ち続け、何十年も前に指導した人の子を今回の訪問で指導するというように親子2代で関わりを持つなど、人から人へと人脈が広がっていくのがとても印象的でした。一度築いた関係をその場限りで終わらせてしまうのではなく、ちょっとした気遣いで関係は保つことができ、そしてそのためには相手からしてくれるのを待つのではなく、自分から行動することが大事だと感じました。また、今回、カナダ遠征ということで、日本語圏でなく英語圏であったため、当然日本語は使えませんでした。大学に入学してからかれこれ4年近く英語に触れていなかったため、出発前から会話が通じるかとても不安でした。実は言うと、ポケットに入るような英会話集まで準備してしまいました。しかし、実際行ってみると、会話の中でいちいち辞書や英会話集などを見ている暇など当然なく、結局遠征中1ページも開かず未使用のまま帰国しました。カナダに着いて最初のうちは緊張していたため、言いたいことを頭の中でしっかり英文にしてから言おうなど、あれこれ考えていたためなかなか言葉が出ませんでした。徐々に慣れて、それなりに相手に自分の言いたいことが伝えられるようになったと思います。高濱先生は、「簡単だ、自分の要求だけを伝えればいいんだ。」とおっしゃっていましたが、意思のはっきりしない日本人にはまさに必要なことだと思いました。また、同じ日本人の集団で行くと、どうしても自分が言わなくても誰かが言ってくれるだろうなどといった甘い考えが出てしまうのは事実です。そのようなことも念頭に自由行動のときは極力個人で行動するなどしましたが、高濱先生のように単身で異国の地に足を踏み入れるとい

う機会があれば、もっと英語も上達しただろうし、度胸もついたのでないかと思います。
この先、時間があればそのような経験もしたいと思います。

今回、このような貴重な経験をさせて下さった高濱先生をはじめ、遠征に御賛同頂いた方々には心より感謝しています。4年間、アルバイトや友人の誘い、帰省、更には学業よりも柔道を優先した甲斐がありました。大口を叩くようですが、自分が精一杯やったことは、必ず自分にプラスになって返ってくると思います。後輩たちには、今回の遠征のような素晴らしい経験を是非経験してもらいたいと思うので、今後は微力ながら後輩たちの力になっていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

カナダ遠征感想

土屋 智子

このカナダ遠征は、感謝の旅でした。

たった一週間です。一週間は本当に短くて、あっという間でした。

しかし、その短い間に、数え切れないほど“Thank you”と言いました。

ドアを開けてくれて“Thank you”、ご飯を作ってくれて“Thank you”、柔道してくれて“Thank you”、歓迎してくれて“Thank you”、お別れのとき、抱きしめてくれて“Thank you”。

何度言っても、全然足りませんでした。どうして、私たちにこんなに良くしてくれるのだろうか？とも思いました。

私たちの英語は拙くて、未熟で、伝えたいことを伝えるのにはあまりに不十分でした。それでもカナダの人たちは、みんな私たちの話を聞いてくれました。そして何より、たとえ言葉が通じなくても、私たちには柔道というコミュニケーションツールがありました。みんなと一緒に体操をし、組み合って打ち込みや乱取りをすれば、

「柔道のおかげでこうしてあなたと出会うことができた、とても嬉しい。」

ということ、容易に伝えることができました。

4日目のカムループス柔道クラブとの懇親会で、私は泣いてしまいました。楽しい夕食会だったので楽しく終わりたかったのに、もう号泣でした。

「何にもしてあげられなかったけど」と言われてしまいました。

泣けて泣けて、“Thank you”も言えませんでした。

カナダに着いてから、私たちはしてもらっただけでした。申し訳ないほどたくさんの親切を受けました。私は“Thank you”と言うしかなくて、それなのに“Thank you”だけでは伝え切れない気持ちばかりで、もっと英語ができればなあ、とも思いましたが、それよりも、今度は私が歓迎する側になりたい、と思いました。

カナダは、気軽に行き来できるほど近くはないけど、そんなに遠くもありません。またカナダに行きたいと思います。カナダを訪れて、お世話になった方々にあいさつして、「ぜひ今度はあなたが日本に来てください。大歓迎します。」と言いたいです。

そしてこのカナダ遠征は、たくさんの方々のご協力があって実現しました。先生方、OBの方々、ご賛同して下さった方々、本当にありがとうございました。この遠征で学んだ多くのことを胸に、これから柔道にも、柔道以外にも励んで行きます。一生の思い出であり、忘れられない経験となりました。